

田原城の歴史

田原城は文明十二(1480)年頃に戸田宗光によって築かれました。戸田氏は田原城を居城とし、五代にわたり周辺勢力と戦や講和を繰り返しながら、全盛期には現在の豊橋市周辺や知多半島南部の河和、富貴までも勢力下に治めました。しかし、五代堯光の時代に今川義元と争い、田原城周辺でも合戦がくり広げられました。結果として田原城は戸田氏から今川氏の城代支配下になりました。その後、松平元康(後の徳川家康)の東三河攻めによって、永祿八(1565)年から田原城は家臣の本多広孝、康重親子が在城し、家康の関東移封に伴い、天正十八(1590)年から吉田城主池田輝政の城代伊木清兵衛が入城しました。江戸幕府成立後、かつて城主だった戸田氏の一族である戸田尊次が入封し、戸田氏三代が在城しました。

寛文四(1664)年には三河拳母(現在の豊田市)から三宅康勝が転封され、幕末まで三宅氏(十二代)が城主を務めました。

田原城主の変遷

年	田原城主
文明十二(1480)年頃	戸田氏
天文十六(1547)年頃	今川親国
永祿八(1565)年	本多氏(徳川親国)
天正十八(1590)年	伊木氏(池田親国)
慶長六(1601)年	尊次忠能忠昌
寛文四(1664)年	三宅氏
	宗光 堯光 政光 宗光 堯光
	朝比奈氏など(城代)
	広孝 康重(城代)
	伊木清兵衛 忠次(城代)
	康勝 康雄 康徳 康高 康之 康武 康邦 康友 康和 康明 康直 康保

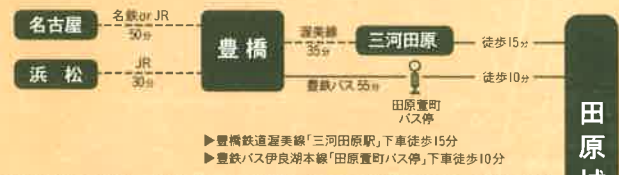


田原市博物館



【交通のご案内】

▼公共交通機関をご利用の場合



▼お車をご利用の場合



開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)
 展示替日(展示期間以外は展示替となります)
 年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料 一般 310円(240円)
 小・中学生 150円(100円)

※毎週土曜日は高校生以下無料 ※()は20人以上の団体料金
 ※特別展・企画展時の料金は別に定めます。

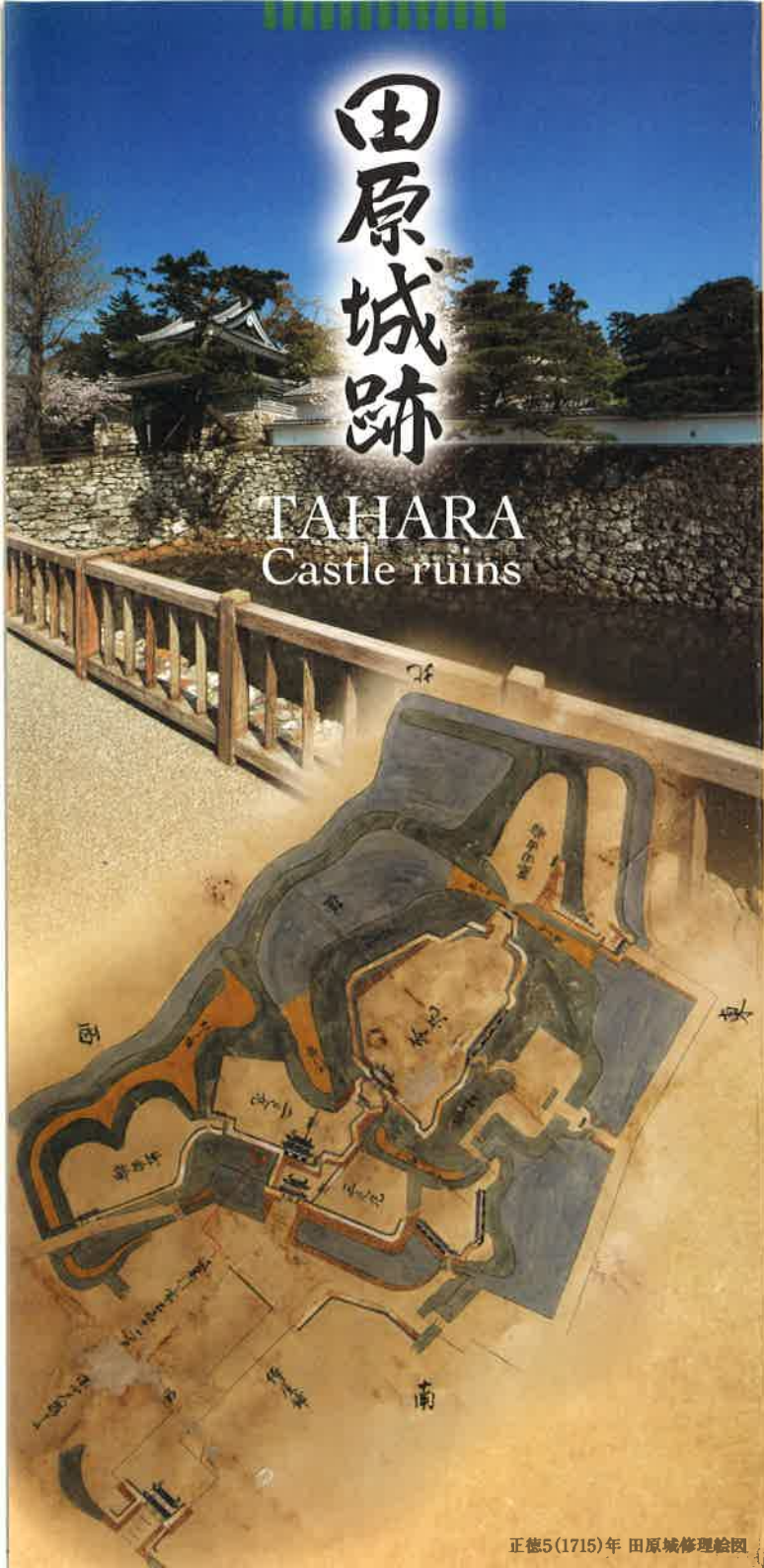
田原市博物館 (田原城跡内)

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11番地1
 TEL 0531-22-1720



田原城跡

TAHARA
Castle ruins



正徳5(1715)年 田原城修理絵図

田原城跡

田原城の基本的な構造は戦国時代につくられた土塁と空堀で囲んだ曲輪で構成され、本丸を中心に南西に二の丸、南に三の丸、北に藤田曲輪、東に腰曲輪という配置をしています。

桜門二の丸槽を中心に石垣や水堀が江戸時代に最終整備され、小規模ながら近世城郭にふさわしい構造となりました。また、江戸時代前期に田原湾が新田開発されるまで、満潮時には海水が田原城の周囲を囲み、その様子が「巴文」に似ていることから「巴江城」とも呼ばれていました。

明治時代の廃城後に建物は取り壊されましたが、曲輪や石垣など、当時のまま残っている箇所もあります。現在、本丸には巴江神社、二の丸には田原市博物館、三の丸には護国神社が建っています。



A 桜門

（平成4年復興）
桜門は2階建ての櫓門でした。大手道から城に向かう曲道から門を見ると、桜門、石垣、二の丸槽などが立ち並び、この場所は当時の人々に権威を感じさせていたことでしょう。

B 石垣

田原城は桜門、袖池を中心に石垣が築かれました。桜門近くの三の丸下の袖池の石垣は田原城で最も古い石垣です。



E 二の丸槽

（昭和32年復興）
田原城には天守がなく、二の丸槽がその役割を担っていました。現在の建物は昭和32（1957）年に復興されました。



廃藩前の二の丸槽（明治4年）

F 巴江神社

本丸に建てられている巴江神社には田原城主三宅氏の遠祖、児島高徳が祀られています。



C 袖池

袖池は桜門前の東側にある石垣が積まれた水堀です。堀の形が屈曲しているのは、門から見た際に、堀が続いて見えるように視覚的に錯覚させる工夫です。



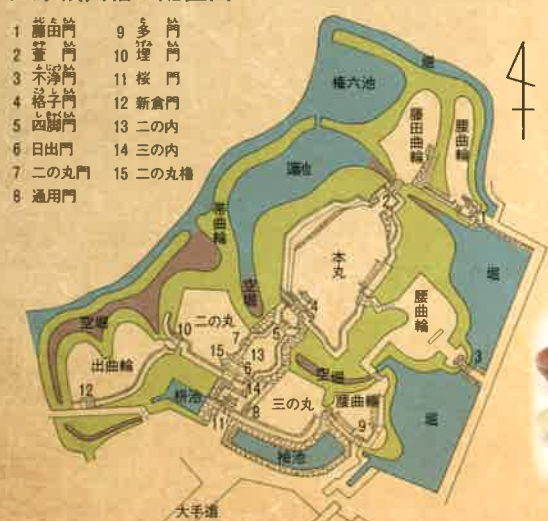
D 枅池

桜門の西側の枅池は枅の形をした池です。現在は石垣で囲まれています。当時の絵図のように石垣はありませんでした。



田原城曲輪の配置図

明和2(1765)年 田原城修理絵図をトレス



瀬戸美濃産陶器 戦国時代



元様式の染付花瓶

田原城跡 藤田曲輪出土品

